



経口用セフェム系製剤
处方箋医薬品^{注)}

日本薬局方
セフジニル細粒
セフゾン® 細粒小児用10%
Cefzon® Fine Granules 10% for Pediatric

承認番号	21800AMX10417
販売開始	1993年6月

注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 [9.1.1 参照]

3. 組成・性状

3.1 組成

有効成分	添加剤
日局 セフジニル 100mg (力価) (1g中)	白糖、ヒドロキシプロピルセルロース、トラガント末、香料、バニリン、プロピレングリコール、アラビアゴム、デキストリン、含水二酸化ケイ素、赤色102号

3.2 製剤の性状

剤形	色調	におい	味
細粒	淡赤白色	芳香がある	甘い

4. 効能又は効果

〈適応菌種〉

本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌

〈適応症〉

表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、膀胱炎、腎孟腎炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱

5. 効能又は効果に関する注意

〈咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、中耳炎、副鼻腔炎〉
「抗微生物薬適正使用の手引き」¹⁾を参照し、抗菌薬投与の必要性を判断した上で、本剤の投与が適切と判断される場合に投与すること。

6. 用法及び用量

通常、小児に対してセフジニルとして1日量9～18mg（力価）/kgを3回に分割して経口投与する。

なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。

8. 重要な基本的注意

8.1 本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。

8.2 ショックがあらわれるおそれがあるので、十分な問診を行うこと。[11.1.1 参照]

8.3 汗血球減少、無顆粒球症、血小板減少、溶血性貧血があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行うこと。[11.1.4 参照]

8.4 急性腎障害等の重篤な腎障害があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行うこと。[11.1.7 参照]

8.5 劇症肝炎等の重篤な肝炎、著しいAST、ALT、Al-Pの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行うこと。[11.1.8 参照]

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.1 合併症・既往歴のある患者

9.1.1 セフェム系又はペニシリーン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者（ただし、本剤に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと）
[2. 参照]

9.1.2 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギー症状を起こしやすい体质を有する患者

9.1.3 経口摂取の不良な患者又は非経口栄養の患者、全身状態の悪い患者

観察を十分に行うこと。ビタミンK欠乏症状があらわれることがある。

9.2 腎機能障害患者

9.2.1 高度の腎障害のある患者

腎障害の程度に応じて投与量を減量し、投与の間隔をあけて使用すること。血中濃度が持続する。[16.6.1 参照]

9.7 小児等

低出生体重児、新生児を対象とした有効性及び安全性を指標とした臨床試験は実施していない。

10. 相互作用

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
鉄剤	本剤の吸収を約10分の1まで阻害するので、併用は避けることが望ましい。やむを得ず併用する場合には、本剤の投与後3時間以上間隔をあけて投与する。	腸管内において鉄イオンとほとんど吸収されない錯体を形成する。
ワルファリンカリウム	ワルファリンカリウムの作用が強化されるおそれがある。ただし、本剤に関する症例報告はない。	腸内細菌によるビタミンKの産生を抑制することがある。
制酸剤 (アルミニウム又はマグネシウム含有)	本剤の吸収が低下し、効果が弱められるおそれがあるので、本剤の投与後2時間以上間隔をあけて投与する。	機序不明

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 ショック（0.1%未満）

不快感、口内異常感、喘鳴、眩暈、便意、耳鳴、発汗等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。[8.2 参照]

11.1.2 アナフィラキシー（0.1%未満）

アナフィラキシー（呼吸困難、全身潮紅、血管性浮腫、蕁麻疹等）があらわれることがある。

11.1.3 皮膚障害（頻度不明）

中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis: TEN）、皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）（各0.1%未満）があらわれることがあるので、発熱、頭痛、関節痛、皮膚や粘膜の紅斑・水疱、皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

11.1.4 血液障害（頻度不明）

汎血球減少・無顆粒球症（初期症状：発熱、咽頭痛、頭痛、倦怠感等）、血小板減少（初期症状：点状出血、紫斑等）、溶血性貧血（初期症状：発熱、ヘモグロビン尿、貧血症状等）（各0.1%未満）があらわれることがある。[8.3 参照]

11.1.5 大腸炎（0.1%未満）

偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎があらわれることがある。腹痛、頻回の下痢があらわれた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

11.1.6 間質性肺炎、PIE症候群（各0.1%未満）

発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、好酸球增多等を伴う間質性肺炎、PIE症候群等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

11.1.7 腎障害（0.1%未満）

急性腎障害等の重篤な腎障害があらわれることがある。[8.4 参照]

11.1.8 劇症肝炎、肝機能障害、黄疸（各0.1%未満）

劇症肝炎等の重篤な肝炎、著しいAST、ALT、Al-Pの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがある。[8.5 参照]

11.2 その他の副作用

	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明
過敏症	発疹	蕁麻疹、紅斑、浮腫	そう痒、発熱
血液	好酸球增多	顆粒球減少	
腎臓		BUN上昇	
消化器	下痢	腹痛、嘔吐、恶心、食欲不振	胃部不快感、胸やけ、便秘
菌交代症		口内炎、カンジダ症	黒毛舌
ビタミン欠乏症			ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症、出血傾向等）、ビタミンB群欠乏症状（舌炎、口内炎、食欲不振、神経炎等）
その他		めまい	頭痛、胸部圧迫感、しびれ

発現頻度は、承認時までの臨床試験及び使用成績調査結果に基づいています。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

12.1 テステープ反応を除くベネディクト試薬、フェーリング試薬による尿糖検査では偽陽性を呈する所以で注意すること。

12.2 直接クームス試験陽性を呈する所以で注意すること。

15. その他の注意

15.1 臨床使用に基づく情報

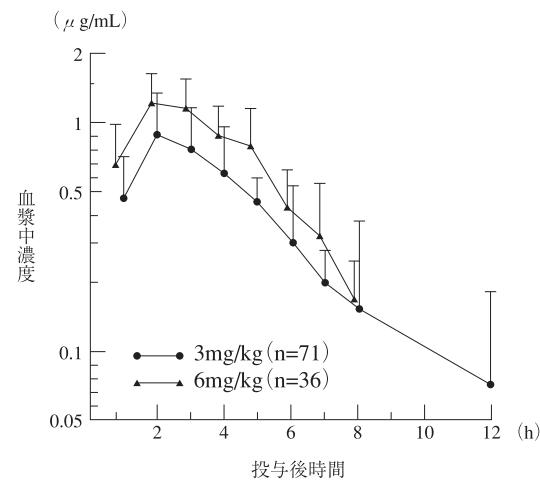
15.1.1 粉ミルク、経腸栄養剤など鉄添加製品との併用により、便が赤色調を呈する所以がある。

15.1.2 尿が赤色調を呈する所以がある。

16. 薬物動態

16.1 血中濃度

小児に3及び6mg（力価）/kgを空腹時に単回経口投与すると約2.5時間後にそれぞれ0.92、1.31μg/mLの最高血漿中濃度が得られ、その消失半減期は1.8～1.9時間であった²⁾。



16.2 吸収

小児28例に3mg（力価）/kgを食後に単回経口投与すると、3.6時間後に0.63μg/mLの最高血漿中濃度が得られ、食後投与では吸収がやや低下した²⁾。

16.3 分布

16.3.1 組織内移行

患者喀痰中³⁾、扁桃組織^{4),5)}、上頸洞粘膜組織^{4),5)}、中耳分泌物^{4),5)}、皮膚組織⁶⁾等への移行が認められた。（セフゾンカプセル成人の場合）

16.4 代謝

ヒトの血漿、尿及び糞便中には抗菌活性代謝物質は認められていない⁷⁾。（セフゾンカプセル成人の場合）

16.5 排泄

16.5.1 主として腎より排泄される。

16.5.2 小児（空腹時）における3及び6mg（力価）/kg経口投与時の尿中排泄率（0～8時間）は約17～21%で、最高尿中濃度は2～4時間でそれぞれ102、189μg/mLであった²⁾。

16.6 特定の背景を有する患者

16.6.1 腎機能障害患者

(1) 成人腎機能障害患者に100mg（力価）を単回経口投与したとき、血漿中濃度の消失半減期は腎機能の低下に伴い延長した⁸⁾。（セフゾンカプセル成人の場合）[9.2.1 参照]

Ccr (mL/min)	例数	t _{1/2} (h)	AUC (μg·h/mL)
≥100	3	1.66	2.76
51～70	1	2.41	10.74
31～50	3	2.92	7.48
≤30	2	4.06	16.94

(2) 成人腎機能障害患者に100mg（力価）を単回経口投与したとき、腎機能の低下に伴い排泄の遅延が認められた⁸⁾。（セフゾンカプセル成人の場合）[9.2.1 参照]

16.6.2 血液透析患者

成人血液透析患者6例に100mg（力価）を食後に単回経口投与したとき、血漿中濃度の消失半減期は健康成人の約11倍に増加した。同じ患者に100mg（力価）を食後に単回経口投与し、ほぼ最高血漿中濃度に達した時間より4時間透析を施行したとき、透析中の半減期は非透析日の約1/6に短縮し、透析による除去率は61%であった⁹⁾。（セフゾンカプセル成人の場合）

	Cmax (μg/mL)	Tmax (h)	t _{1/2} (h)	AUC _{0-∞} (μg·h/mL)	除去率 (%)
非透析日	2.36	9.00	16.95	69.05	-
透析日	2.03	-	2.76 ^{注1)}	30.18	61

注1) 透析中の半減期

17. 臨床成績

17.1 有効性及び安全性に関する試験

17.1.1 皮膚感染症に対する国内一般臨床試験

1日 9～18mg（力価）/kgが投与された患者の表在性皮膚感染症（毛嚢（包）炎、伝染性膿瘍症）、深在性皮膚感染症（丹毒）、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症（皮下膿瘍、慢性膿皮症）に対する有効率は100%（60/60例）であった。

17.1.2 呼吸器感染症に対する国内一般臨床試験

1日 9～18mg（力価）/kgが投与された患者の咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎に対する有効率は94.9%（372/392例）であった。

17.1.3 尿路感染症に対する国内一般臨床試験

1日 9～18mg（力価）/kgが投与された患者の尿路感染症（膀胱炎、腎孟腎炎）に対する有効率は93.5%（58/62例）であった。

17.1.4 猩紅熱に対する国内一般臨床試験

1日 9～18mg（力価）/kgが投与された患者の猩紅熱に対する有効率は100%（77/77例）であった。

17.1.5 耳鼻科領域感染症に対する国内一般臨床試験

1日 9～18mg（力価）/kgが投与された患者の中耳炎、副鼻腔炎に対する有効率は78.9%（15/19例）であった。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

作用機序は細菌細胞壁の合成阻害であり、その作用点は菌種により異なるが、ペニシリン結合蛋白（PPB）の1(1a、1bs)、2及び3に親和性が高い^{10), 11)}。

18.2 抗菌作用

18.2.1 グラム陽性菌及び陰性菌に広範囲な抗菌スペクトルを有し、特にグラム陽性菌のブドウ球菌属、レンサ球菌属等に対して強い抗菌力を示し、その作用は殺菌的である^{12)～16)} (*in vitro*)。

18.2.2 各種細菌の產生する β -lactamaseに安定で、 β -lactamase產生菌にも優れた抗菌力を示す^{10)～14)} (*in vitro*)。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：セフジニル（Cefdinir）

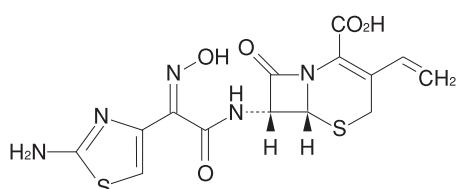
化 学 名：(6*R,7R*)-7-[*Z*]-2-(2-Aminothiazol-4-yl)-2-(hydroxyimino)acetylaminol-8-oxo-3-vinyl-5-thia-1-azabicyclo[4.2.0]oct-2-ene-2-carboxylic acid

分 子 式： $C_{14}H_{13}N_5O_5S_2$

分 子 量：395.41

性 状：セフジニルは白色～淡黄色の結晶性の粉末である。水、エタノール（95）又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。pH7.0の0.1mol/Lリン酸塩緩衝液に溶ける。

化学構造式：



融 点：不明瞭。150°C付近から黄色味を帯び、その後徐々に褐色味を増し、220°C付近で黒色となり分解する。

分配係数： 4.0×10^{-2} (1-オクタノール/水系)

略 号：CFDN

20. 取扱い上の注意

20.1 パラ包装は開栓後、光、湿気を避けて保存すること。光による退色及び湿気による固化のおそれがある。

20.2 分包品はアルミピロー包装開封後、光、湿気を避けて保存すること。光による退色及び湿気による固化のおそれがある。

22. 包装

100g [瓶、乾燥剤セットキャップ]

23. 主要文献

- 1)厚生労働省健康局結核感染症課編：抗微生物薬適正使用の手引き [R-07700]
- 2)Jpn. J. Antibiot. 1990; 43 (8) : 1407-1488
Jpn. J. Antibiot. 1990; 43 (10) : 1783-1835
Jpn. J. Antibiot. 1991; 44 (10) : 1061-1191
Jpn. J. Antibiot. 1992; 45 (1) : 12-86
上記文献より集計 (DIR930001)
- 3)石岡伸一 他：日本化学会誌 1989; 37 (S-2) : 536-539 [CFN-00071]
- 4)河村正三 他：日本化学会誌 1989; 37 (S-2) : 1043-1052 [CFN-00111]
- 5)征矢野薰 他：日本化学会誌 1989; 37 (S-2) : 1053-1061 [CFN-00112]
- 6)乃木田俊辰 他：日本化学会誌 1989; 37 (S-2) : 955-969 [CFN-00104]
- 7)島田 駿 他：日本化学会誌 1989; 37 (S-2) : 208-245 [CFN-00031]
- 8)西谷嘉夫 他：日本化学会誌 1989; 37 (S-2) : 823-840 [CFN-00094]
- 9)Hishida, A. et al. : Antimicrob. Agents Chemother. 1998; 42 (7) : 1718-1721 [CFN-00452]
- 10)横田 健 他：日本化学会誌 1989; 37 (S-2) : 16-29 [CFN-00017]
- 11)峯 靖弘 他：日本化学会誌 1989; 37 (S-2) : 122-134 [CFN-00024]
- 12)井上栄子 他：日本化学会誌 1989; 37 (S-2) : 1-15 [CFN-00016]
- 13)五島瑳智子 他：日本化学会誌 1989; 37 (S-2) : 30-55 [CFN-00018]
- 14)加藤直樹 他：日本化学会誌 1989; 37 (S-2) : 65-76 [CFN-00020]
- 15)西野武志 他：日本化学会誌 1989; 37 (S-2) : 77-96 [CFN-00021]
- 16)峯 靖弘 他：日本化学会誌 1989; 37 (S-2) : 100-121 [CFN-00023]

24. 文献請求先及び問い合わせ先

LTLファーマ株式会社 コールセンター

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6丁目10番1号

フリーダイヤル 0120-303-711

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売

LTLファーマ株式会社
東京都新宿区西新宿6丁目10番1号